

## コニカミルタ株式会社

### 2016 年（平成28 年）3 月期 第3四半期 決算説明会

#### 主な質問と回答

日 時： 2016 年1 月28 日（木） 17:30-18:30

場 所： 野村コンファレンスプラザ日本橋

#### <ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください

#### 【Q&A】

Q:3Q は厳しい決算だったということですが、どの事業が想定より悪かったのでしょうか？

A:利益に関して言えば、情報機器事業でした。その他の事業は、概ね社内計画インラインでした。

Q:12 月末の在庫が増えています。今後どのように絞っていくかについて、教えてください。

A:当社の事業の特性から、12 月末の在庫は毎年増える傾向にあります。というのは、情報機器事業とヘルスケア事業においては4Q が販売ボリュームのピークになりますので、12 月(はそれに向けた「弾込め」を行うからです。

今年度はそうした季節要因に加えて、情報機器事業が北米での競合激化の影響を受けて、期待した販売を達成できなかったことが影響しました。そうした状況に対して、既に生産は絞り込んでいます。

また販売面でも、直販のパイプラインが積み上がっていますし、再販のチャネル在庫も減っていますので、3 月末には1,200 億円台に下げることが、今の目標になっています。

Q：生産を絞るとコスト面では厳しくなるように思いますが、対応策があれば教えてください。

A：生産の中国一國集中の状況から、ASEAN へのシフトも進めています。マレーシアの新工場では量産の立ち上げが始まり、自動化によるコストダウンも見込んでいます。

Q：投資キャッシュフロー1,100 億の内訳と、M&A の増収効果の規模感を教えてください。

A：まず1,100 億円のうち、M&A 関係で600 億円、設備投資で約500 億円という内訳です。M&A による増収効果は3Q 累計で200 億円弱になります。年間では250 億円程度になると予想しています。

Q：営業キャッシュフローについての来期の目線はどのあたりにありますか？

A：来期については予算編成の過渡期にありますが、現時点の目線としては1,000 億円です。

Q：為替感応度に関して、ユーロの影響に注記が追加されましたが、その理由と今後の為替影響の見方について教えてください。

A：これまで、営業利益に対するユーロの影響は、1 円の変動で 8 億円と説明してきました。ただし、ユーロ以外の欧州通貨もユーロ、円に連動して動くことがあるため、それも含めた感応度もお伝えした方が、誤解が少ないのではないかと判断しました。

ユーロの影響を抑えるため、例えば欧州での現地生産といった施策の検討もしましたが、現時点ではそこに踏み切る判断には至っておらず、ユーロの感応度の基本的なベースは来年度も変わりません。

以上